

今から予防の意識付け！

【熱中症による救急統計について】

例年、気温や湿度が徐々に上昇する6月頃から、熱中症による救急搬送事例が多くなります。天候が安定しない梅雨の時期は、日によってまた時間帯によって気温の変動が大きいことから、身体が暑さに慣れにくく、急に暑くなったタイミングで熱中症を発症する事例が多くあります。

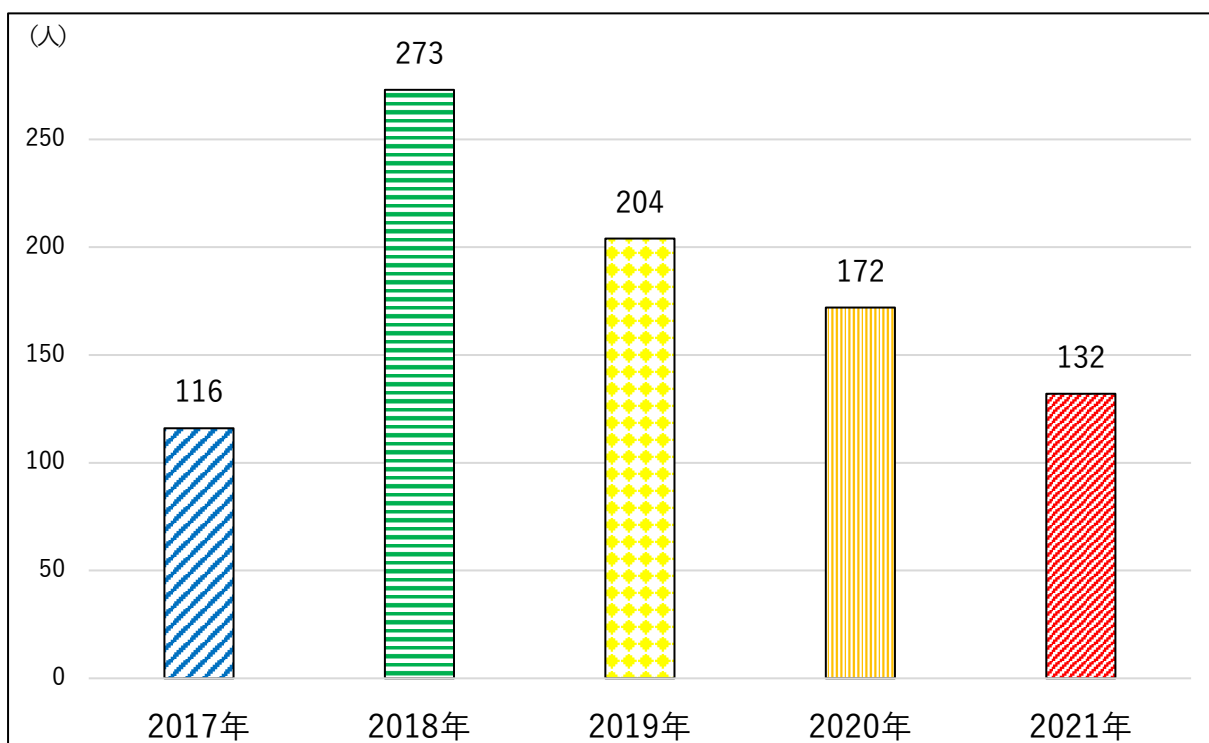
このような熱中症リスクの特性とともに、これから本格的な夏を迎えるにあたって注意喚起を図るため、過去5年間（2017年から2021年まで）の熱中症による救急統計（6月1日から9月30日まで）を取りまとめましたのでお知らせします。

※ 小数点を含む数値は、小数第二位を四捨五入して表記しています。

1 年別の救急搬送人員

本組合管内では、過去5年間（2017年から2021年まで）に熱中症（熱中症疑いを含む）により897人が救急搬送されています。

最も救急搬送人員が多かったのは2018年で273人、次いで2019年の204人と続きます。

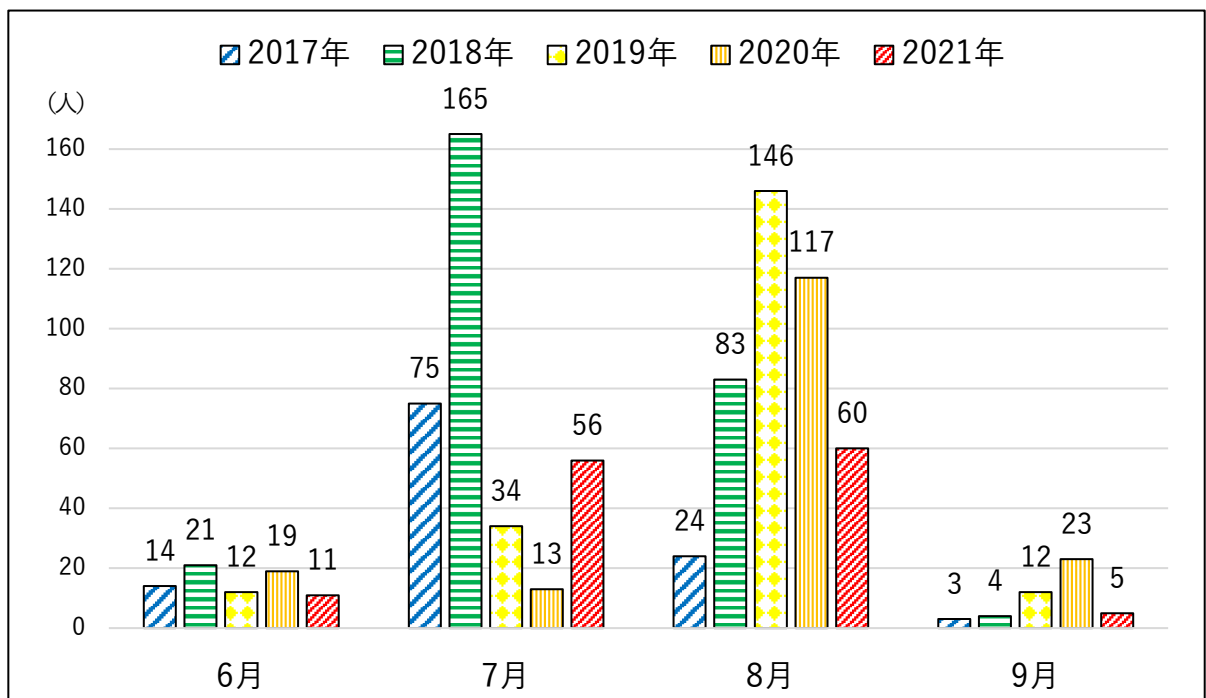
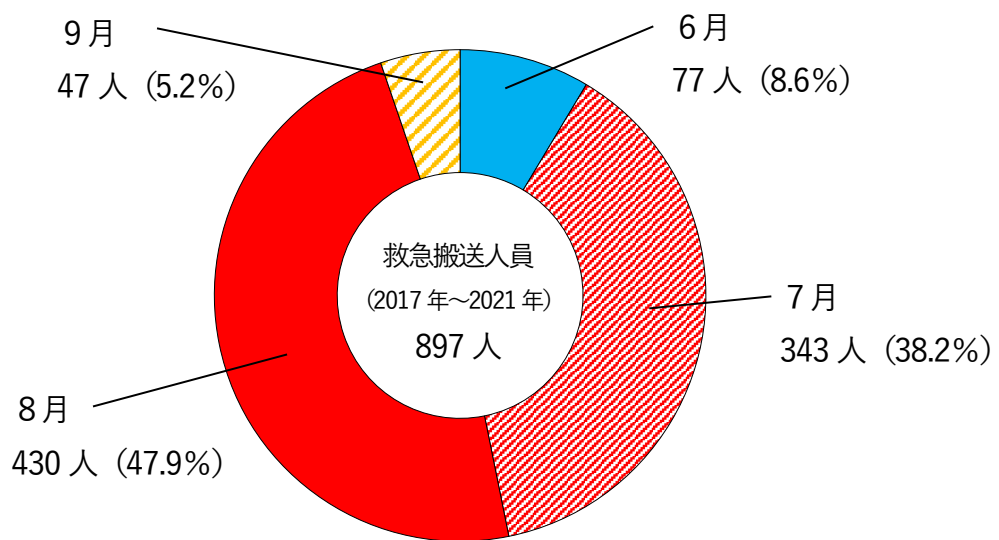


2 月別の救急搬送人員

過去5年間の合計を月別にみると、8月が430人（47.9%）で最も多く、次いで7月が343人（38.2%）となります。

各年の月別をみると、年によって7月が最も多い場合と、8月が最も多い場合があり、これは梅雨明けの時期などが関連していると推測されます。

2018年は7月14日ごろに梅雨明けしたため、7月に熱中症による救急搬送が多発し、2019年は7月25日ごろ、2020年は8月2日ごろに梅雨明けしたため、8月に熱中症による救急搬送が多発したとみられます。（梅雨明けの時期は、いずれも気象庁発表データ。）

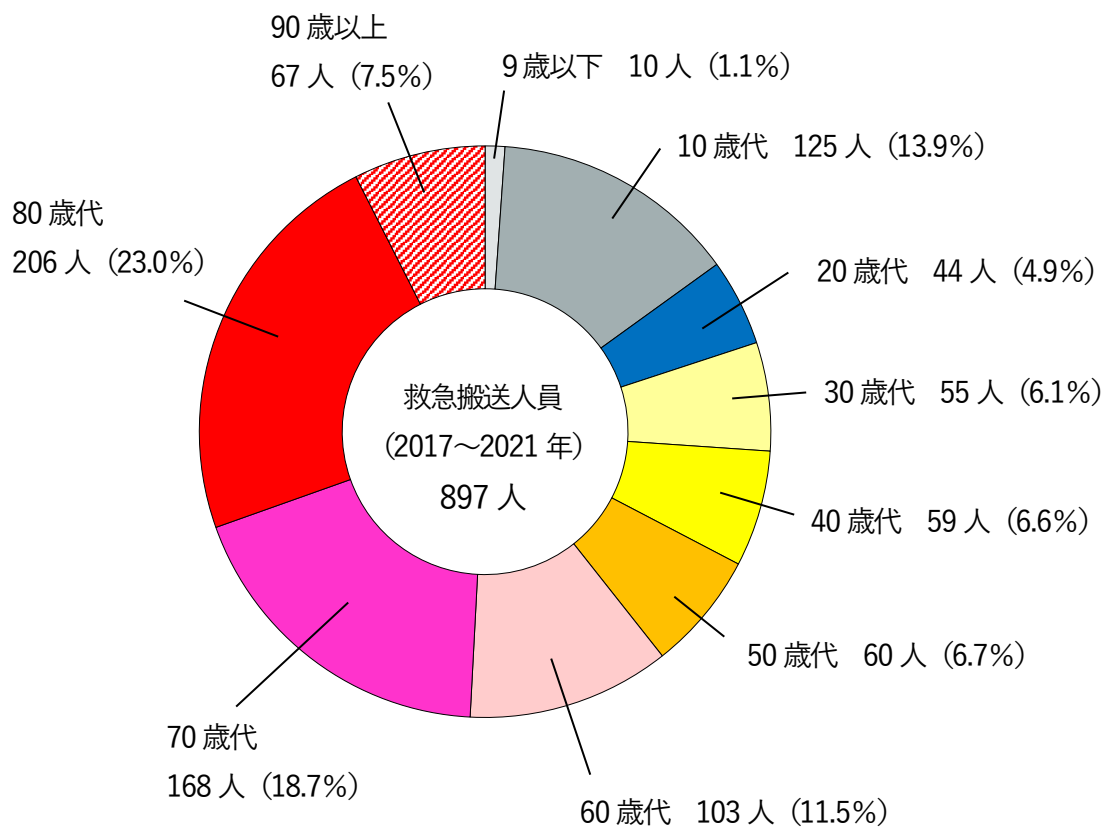
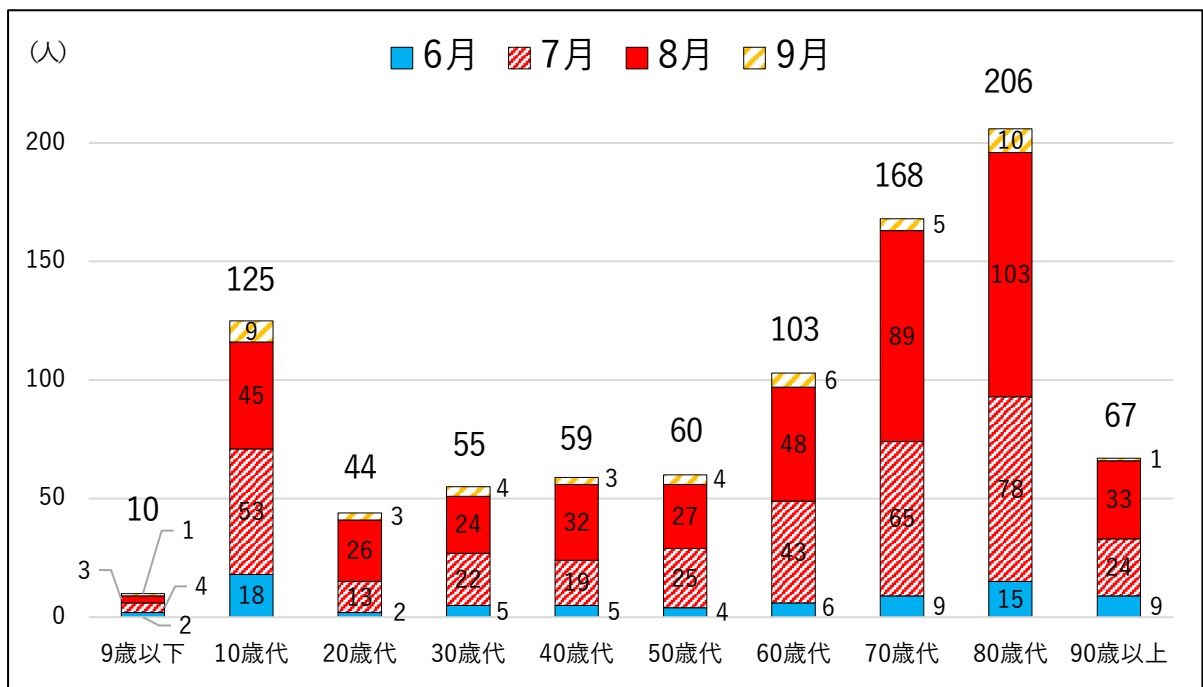


3 年代別の救急搬送人員

過去5年間の合計を年代別にみると、80歳代が206人（23.0%）で最も多く、次いで70歳代が168人（18.7%）、10歳代が125人（13.9%）と続きます。

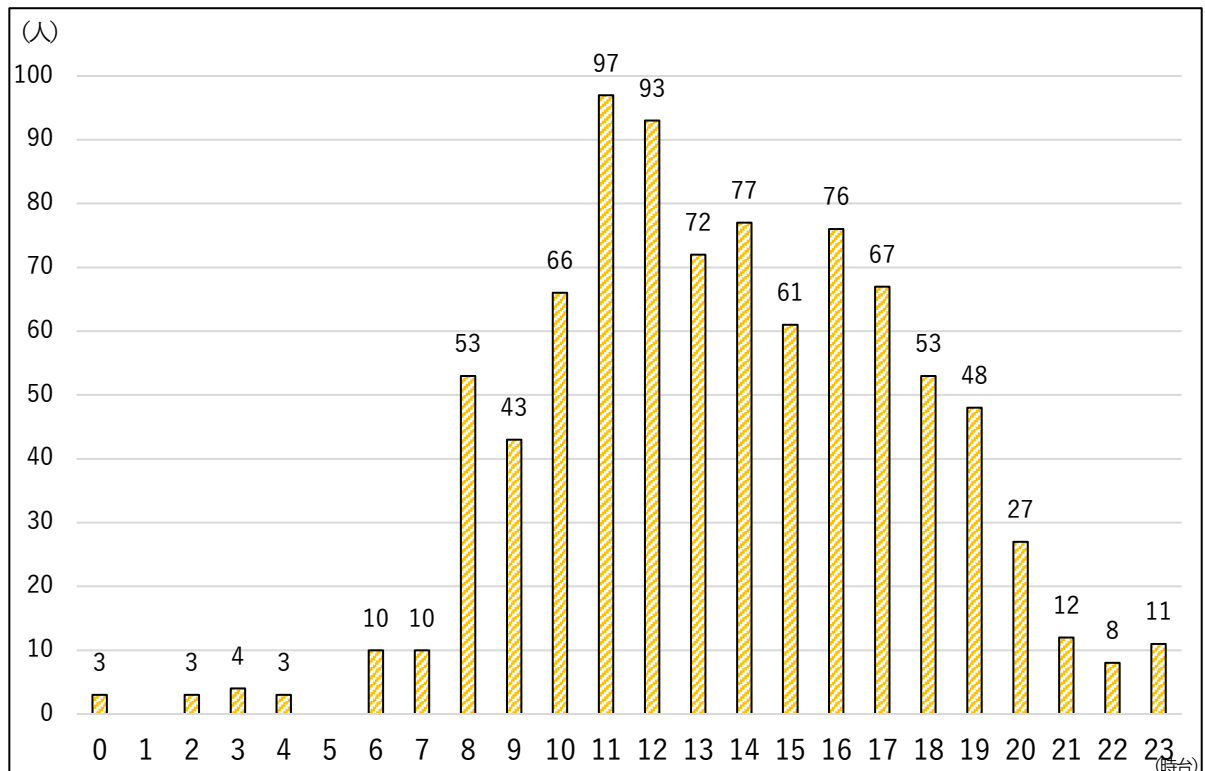
60歳代以上が544人で全体の60.6%を占めています。

一方で、50歳代以下では、10歳代が突出して多くなっています。



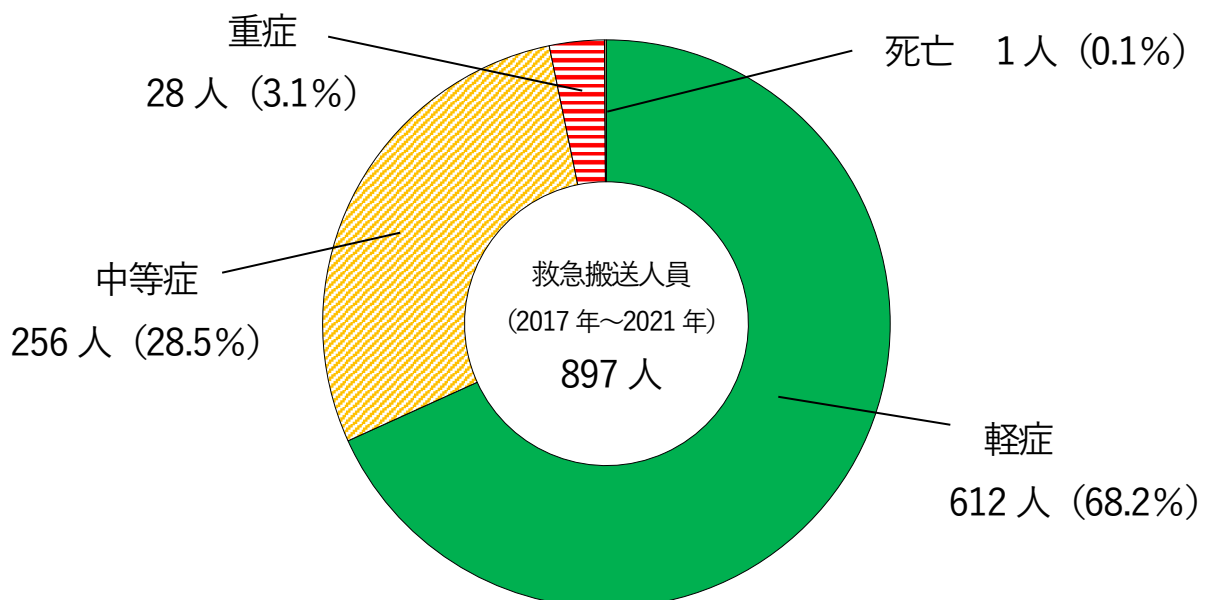
4 時間帯別の救急搬送人員

過去5年間の合計を時間帯別にみると、11時台が97人（10.8%）で最も多く、次いで12時台が93人（10.4%）、14時台が77人（8.6%）と続きます。



5 初診時の傷病程度

過去5年間の合計を初診時の傷病程度別にみると、軽症が612人（68.2%）で最も多く、次いで中等症が256人（28.5%）、重症が28人（3.1%）、死亡が1人（0.1%）となります。



6 救急要請時の発生場所

過去5年間の合計を発生場所別にみると、「住宅等」での発生が455人（50.7%）で最も多く、次いで「公衆（屋内）」が153人（17.1%）、「公衆（屋外）」が118人（13.2%）、「道路」が79人（8.8%）、「教育機関」が63人（7.0%）と続きます。

